

平成25年度府中市事務事業点検アンケート

- ・傍聴者数 7月6日(土) 136人／7月7日(日) 122人 合計258人
- ・アンケート回収数 7月6日(土) 64人／7月7日(日) 49人 合計115人
(回収割合44.4%)

※提出内容で未回答や複数回答もカウントしているため、合計とは一致していません。

■所属

	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
市民	33	26	59	56.2
職員	4	2	6	5.7
議員	3	7	10	9.5
報道				
その他	19	11	30	28.6

■お住まい

	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
府中市	38	27	65	60.8
東京23区	5	7	12	11.2
東京23区以外	13	10	23	21.5
東京都外	4	3	7	6.5

■年齢

	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
～19歳				
20～29歳	3	2	5	4.9
30～39歳	5	9	14	13.6
40～49歳	13	9	22	21.3
50～59歳	21	7	28	27.2
60～69歳	9	12	21	20.4
70歳～	6	7	13	12.6

■府中市事務事業点検を知ったきっかけ

	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
市広報	19	18	37	28.7
市ホームページ	13	8	21	16.3
新聞	5	3	8	6.2
チラシ	6		6	4.7
回覧版	3	6	9	7.0
知人より	9	4	13	10.0
構想日本の案内	10	14	24	18.6
その他	6	5	11	8.5

その他の内容

1. 説明者（市職員）の説明についてどう思われましたか？

	7月6日（土）	7月7日（日）	合計	割合
非常にわかりやすかった	3	3	6	5.8
わかりやすかった	12	11	23	22.1
ふつう	20	21	41	39.4
わかりづらかった	17	7	24	23.1
非常にわかりづらかった	4	3	7	6.7
その他	2	1	3	2.9

理由

7月6日分

▽非常にわかりやすかった

・データ分析もしっかり実施され、全体像が見え、わかりやすかった。市民サービスを維持するのだという意思が感じられた。

▽わかりやすかった

・事業シートも詳細に記述され、必要に応じて補足資料も添付されており、わかりやすかった。
・市民を中心に考えている。
・市の仕事について、自信を持って話されていたと思います。ただ、点検の方が効果・結果を追求された場合、フォローしきれていない部分もありました。

▽ふつう

・事業が導入された経緯について、もっときちんと理解して説明して欲しかった。
・目的や成果を強調して話してほしい。
・職員自身の事業分析が不足。流れ作業で仕事をやっていないか。事業発足の理由、経過を学んできていない。（定期異動で身につかない）
・資料をよく準備して臨んでいたと思う。説明をもっと自信を持って説明したほうが良いと思ったので。

- ・簡潔に説明しようとするためか、省略されてわかりづらいところもあった。

▽わかりづらかった

- ・結論及び回答を最初に述べないため、あいまいな説明になっている
- ・具体的なケースをだし、「～こうだから、これが必要」（そのコスト、また、コストという考え方が適しているかも含め）とアピールして欲しい。「しどろもどろ」がもったいない。
- ・勉強不足だと感じた。数字の把握が弱い。
- ・点検委員間の応答なので細部にわたっており、事業概要等つかめなかった。
- ・具体的でなかった。（2－2）
- ・自分のとこの事業内容を細部まで把握した上で臨んでいないため、質問に対する的確な回答になっていない。
- ・仕方のないことだと思うが、資料が数字の羅列だけで、訴求力に欠けていたような（もっと視覚化したものを参考にしたかった）。事業のリサーチ不足。
- ・事業の内容を知らないようだ。
- ・点検委員の問題意識を汲み取ってきちんと回答すべき。（事業担当者としての責任）説明能力が低いのではないか？または勉強不足
- ・指導室が学校の状況を十分説明できていない部活動のそもそもの学校教育上の位置づけや海外子女の学校の中での問題点（困難点）
- ・事務・執務の内容・範囲が狭い考えしか持っていないと考えられる。幅広い考え方が必要である。
- ・準備不足で説得力がなかった。もっと園の中味を見て、もっといいところを強調してほしかった。（1－7）
- ・質問に関して、実態の把握ができてなく、税金を使って事業をやる意識がない。
- ・事業の目的があいまいなものが多い。説明の際の言葉が分からない

▽非常に分かりづらかった

- ・説明する能力、意欲の不足
- ・今年で3年目なのに過去2年の経験が全く活かされていない。

- ・外部者（市民）にわかりづらい。（内部説明に終わっている）
- ・2-1について、プロジェクターを利用し、会場にも見えように工夫が必要。資料の一致がされていないために、個別具体的ではなく、市としての考え、質問に対して考え方が分かりにくい答弁であった。組織体制全体が見えない答弁。

▽その他

- ・しっかりしたプレゼンや説明をしながら、不要、要改善となる。問答想定が甘い。

▽選択していないが意見あり

- ・書いてある事しか読み上げていなかった。補足がない。
- ・点検項目により異なる。

7月7日分

▽非常に良かった

- ・事務に詳しく、日々頭を使いながら仕事をしている様子が伺える。

▽わかりやすかった

- ・項目の羅列は良くできているが、受益者（市民）などにどういう効果を出そうとしているのか（抽象的でなく）。事業の成り立ち、目的などが担当者の異動であいまいになっている。無理やりの説明が見受けられる。
- ・事業によって差はあったが、全体を通してわかりやすかった。特に短い時間で概要をつかむという意味では、1-15計画課の方の説明がわかりやすかった。
- ・十分に準備をされている感じがした

▽ふつう

- ・説明者によって異なる
- ・資料の関連がわかりづらい（事務局の問題で、説明者に問題はないと思います）
- ・事業シートに書かれていることが基本そのままだったので、理解はできました。

- ・ たてまえ、そもそも論的な説明は不要である。
- ・ 事業シートを呼んでいるだけなので
- ・ まわりくどい回答が多いと思います。質問に対して、簡潔に回答する訓練を実施した方が宜しいと思います。2－20はすごく分かりやすかったです。
- ・ 説明が単調。担当する事業に対して、意欲や理念が語られていいのではないのでしょうか。
- ・ 人によるが、さすがに慣れている。

▽わかりづらかった

- ・ 早口で資料にそって確認できなかった
- ・ 無駄な説明が長すぎる。
- ・ 質問に的確な答えになっていない
- ・ 説明資料が不足（不十分）
- ・ 点検委員の質問に的確にこたえられていない。議会の一般質問のように事前に質問内容が判らず、職員も慣れていない為か。

▽非常に分かりづらかった

- ・ 委託金、補助金の収支を的確にして欲しい（準備不足）

2. コーディネーター及び点検委員についてどう思われましたか？

1班	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
よかった	10	10	20	26.3
ややよかった	6	8	14	18.4
ふつう	20	10	30	39.5
ややわるかった	3	2	5	6.6
わるかった	6		6	7.9
その他	1		1	1.3

2班	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
よかった	7	8	15	20.0
ややよかった	3	5	8	10.7
ふつう	21	9	30	40.0
ややわるかった	3	5	8	10.7
わるかった	4	2	6	8.0
その他	4	4	8	10.6

理由

7月6日分

▽よかった

- ・事業内容(数字)の聞き取りで、問題の抽出に至らないものもあった。(部活動指導事業)

市民点検委員がよく勉強されていると思った。

- ・最初から切り込んでから意見交換する場面は適切でした。内容でコーディネーターの出番、発言が様々に工夫しているのは評価する。社協との関係に切り込むことは両氏がされていてすばらしかった。

- ・問題の指摘が明確にされた。

▽ややよかった

- ・ 議事進行がうまいと思った（1班）
- ・ 一度、自分の理解とずれているまま内容を確認せずに間違った前提に立って質問していたことがあった。

▽ふつう

- ・ 傍聴席が説明者の後ろに配置されているので、コーディネーターの事はわかりやすい（顔が見えるので）ように思えたが、市側の顔も見たい。
- ・ 質問が的を得ていない。
- ・ もう少し、予算の増減についての審議があっても良いと思う。
- ・ 点検委員の座席表が資料にあると良いと思いました。
- ・ 市民委員のレベルが低すぎる。表面的に見えるところしか捉えていない。問題や疑問に思っているその要因をもっと聞くべき。
- ・ 構想日本の視点が良くわからない。目的が見直しだからでしょうか？現場をどこまで知っているのか不明。
- ・ 質問内容がすぐ予想できたので、魅力なかった。

▽ややわるかった

- ・ 要点を聞き出せていなかった
- ・ 市民として事業の内容を全く理解できず、資料も読まないまま質問している例がまだ見られる。論点がわからない。点検委員は、ただ事業を理解しようとしているようにしか見えない。

▽わるかった

- ・ 事業シートの人件費についての基本的な理解ができていない（1-3の1人の点検委員）
市民の命に直結する可能性のある休日・夜間診療を費用対効果のみで図る委員の考えはだめですよ。むしろ、毎年、大事に至らずに済んでよかった場合もあると私は考えます。
- ・ 例えば、休日夜間資料のやり取りの中で、医師会の会計報告を求めるべきとの意見もあったが、委託している団体に対して、委託事業の枠を超えた資料要求が出来るのか、法的に対応可能なの

か疑問がある。確かに問題のある事業だが、感情のみで、法的根拠もない中で改善を求める姿勢は疑問。

- ・ 1-8 海外からの生徒児童の言語について、「18歳未満の子どもは半年もあれば言語（日本語）が覚えられると断定的に発言していたが、日常会話と学校教育学習内容での習得では、まったく違うということが理解し絵地なかった。（あまりにも乱暴な発言にびっくりした）。また、またこのことについて指導室が学校の子どもの現状を正確につかんで説明していなかった。

▽選択していないが意見あり

- ・ 話の内容が偏っている。市民サービスの意味を理解しているのか？
- ・ 個人差がある

7月7日分

▽よかった

- ・ 市の職員とコーディネーター（仕分け人）とが、考え方の交換が出来ると良い。
- ・ 「明日の事業」に向けての議論へ持っていく
- ・ 住民目線+他地域の実績も含めて議論されていて良かった。
- ・ 時間配分。論点整理（2班）
- ・ 的確な質問をしていたので（2班）

▽ややよかった

- ・ 色々な視点での質問が多数（特に市民の視点）
- ・ 事業の実態をよく知っている方が多い。問題点を的確に指摘していた（2班）
- ・ 最後、コーディネーターの結論、まとめ後の講評はわかりやすかったです。

▽ふつう

- ・ 数字中心の議論で、事業がどのような人を対象としているか理解していない
- ・ 調書をよく読みこんでいると感じた
- ・ 委員の質問は？が多い。勉強されているのか？（事前に）

- ・点検委員に若者や女性が多ければ、多様な意見が出てくると思います。
- ・一般市民なので、まず、内容を理解する必要があることについてはやむを得ない。それとフォローする意味で、構想日本メンバーとのバランスは再考してもいいかもしれない。
- ・質疑の口火を切る委員が方向性ズレ。鋭い質問をする委員もいた（2班）

▽ややわるかった

- ・1班と2班の議論の質・テンポに大きな格差があったのではないかと（全ての事業を1班の方で実施された方がいいのではないかと）
- ・机上の数値やコメントでの発言は・・・？
- ・中途半端なごみ問題の知識で評価を下した点が非常に気になった。ごみ問題については（構想日本として）もっと最新情報と地域差の大きさをきちんと整理・共有しやほうが良い。（2班）
- ・地域の人でもボランティア（無償）でやっている。もっと個々の公園緑地を良く知って追求してもらいたい。
- ・本当に現場を見ているのか？書類だけの質問で何がわかるのか？

▽その他

- ・1人の点検委員が悪かった。（2-11の事業点検）
- ・事業の課題が理解されていると思う。

▽選択していないが意見あり

- ・各人（各委員）によります。

3. 今後も事務事業点検をこのような方式で続けたほうがよいですか？

	7月6日(土)	7月7日(日)	合計	割合
この方式で続けたほうがよい	23	23	46	51.1
違う方式で実施したほうがよい	21	12	33	36.7
事務事業点検はやらなくてよい	5	4	9	10.0
その他		2	2	2.2

7月6日分

▽この方式で続けたほうがよい

- ・ 広く市民にアピールする必要あり
- ・ 事業主管課にとって、事業の成果を数値化するなど、意識が高まると思う。市民感覚が専門的ではないにしても直に聞ける
- ・ 公開でやる事、資料を一般に公開する方式はつづけた方がよい。
- ・ なかなか広がりを見せないだろうが意味はあると思う。構想日本は言うだけのイメージしかないので、手を切ってもいいのでは。
- ・ 外部評価は、市の施策の進行管理を図るために必要と考える
- ・ 一人でも多くの市民に興味を持たせ、市政への参加意識を感じさせたのでは？
- ・ 市民に公開の場で実施できる点。
- ・ 無駄をなくすという視点からは、コーディネーターの質問は的確であり、うなづかざるおえないところ多々でした。説明者側の完敗みたいな雰囲気なので、もう少しリサーチして臨んで欲しい。
- ・ 財政の厳しい中で、少しでも経費節減のため、当然続けるべきである。
- ・ ただし、時間的な厳しさが課題と感じる。短時間で必要・十分な議論をしなければいけない難しさ。
- ・ 点検対象事業を500万円以上1000万円とわけているが、そうでない事業についても、選択理由を明確にして浮上させるべきである。
- ・ 施策の確認と事業の品質の向上ができる。

▽違う方式で実施したほうがよい

- ・市民点検委員は半数で良い。外部視点という意味合いから、他市の状況や専門性の知識のある人が必要。事業シートの作成内容が分からない。点検委員からの質問は無駄。

事業をまとめてもっと時間をかけてやらないと、点検側も回答側もまともな検討ができないと感じる。

- ・1時間くらいで、その事業の存廃の判断は厳しい。
- ・何年やってもその経験が活かされていないため。この方式（構想日本式）は、旬ではない。過去の遺物。

- ・議論が出尽くしている感じがしない。生活者の実態が見えない。

- ・資料が多すぎる

- ・時間と金の無題。

- ・市の職員の努力を簡単な言葉で済ませている。

- ・明確になる部分もあるが、議題に偏りがでてしまっている気がする。

- ・事業点検は必要だが、公開する必要はないと思う。ただし、傍聴者からの質問もできれば、このやり方は可だと思う。

- ・投資的経費の点検こそ必要なのでは。

- ・傍聴者にも意見を言う時間を作って欲しい。1-8. 1-9. は学校現場からの職員の具体的な話を聞く時間を作って欲しい。

- ・会場は1つですべてに出席できるように。

- ・判定者の「事業聞き取り時間」が多すぎる。事業を調査し、学習して仕分けに入って欲しい。・時間の無駄が多い。消防団の活動を認めながら、お茶代はいけなないとすると費用は削られるだけ。その分をきちんと団員に渡す提案をだしてください。

- ・チマチマしたところを突いている感もする。点検の意味は分かるが、もっと大きな支出事業があるのでは？

▽事務事業点検はやらなくてよい

- ・現場を知らないものが、日曜休んでいる者が、好き勝手にしゃべっていた。

- ・内容や現場の実態を40分間ですぐ知って、判断、評価しようとするのは無理。内容によっては、内容を良く知らないで評価を出しているものがあったので、5人で評価されるなんておかしい。以前どおり、役所の方が現場の声と市民の声をよく聞いて政策を作ると良い。

▽項目選択はないが意見あり

- ・方式に関わらず、点検結果が、どれだけ事業に反映されたかが大切だと思います。
- ・本来、議会や広報、パブコメなどでも対応できる部分が多いように思う。インターネット中継は意味があるのか？記録し、ネット上で閲覧可能にするだけでよいのでは
- ・話を聞いて質問をしたくなった。点検委員以外にも発言を。

お疲れ様です。運営につきとても参考になりました。

7月7日分

▽この方式で続けたほうがよい

- ・委託金、補助金に税金が使われていることを考え、収支の公表をして欲しい。行政のいい加減さを腹立たしく思った。
- ・行政の無駄を拡大しない為にも、継続して行う必要がある。
- ・市税の用途について、市民の理解が深まる。
- ・評価にさらされない事業は停滞する。市職員の意識改革のために必要。
- ・外部評価と市民の参加の道具として続けた方が良いと思うが、もう少し若い市民の方たちも来場するとなおよいと思う。(ユーストリームの状況(視聴者層)はわかりませんが)
- ・説明者及び点検委員の質の向上が必要では？
- ・事業についてだけでなく、そのつながり全体で(施策)仕分けをするものもあると考える。見直し効果も大きくなるのではないか。
- ・予算500万円以下の事業についても、条件を設定して点検すべき。
- ・もう少し続けて、見直しを。
- ・担当者も真剣になる

- ・ 1事業の仕分けにかかる時間は少ないですが、これは仕上げ。ここまでの事業報告の資料づくりなどを通して、事務事業のチェックなども行われており、市民の目が入ることにより、緊張感もでてくるでしょう。

- ・ 結局は、市民がどう考えるかなので、市民判定人主体でいいとは思いますが、議論が深まらないくらいはある。

▽違う方式で実施したほうがよい

- ・ 自治体運営が二元代表制（首長・議会）を基に運営されている中で、事業仕分けの位置づけが非常にあいまいであり、議会の監視機能との点で、まったく整理されていないため、非常にあいまいの割に、この仕分け事業自体費用をかけすぎ（人件費含む）で、即見直しをした方がよい。

- ・ 投資的経費も含む、とりわけ再開発、庁舎建替え等々

- ・ 市だけでなく、関係者を入れて問題を抽出すればよい。仕分けの方々は現状の認識ができていない事業も多い。（関係者への聞き取りを行わないと、問題点が浮かび上がらない）

- ・ 対象自治体の情報を十分に把握した上で、行わないと単なる構想日本の実績作りに留まってしまふ。特にその自治体の政策的な流れ、変化について押さえておくべきでは？（3年間を通しての感想）

- ・ マンネリにならないよう方式を考えて欲しい。観光事業について、前年と同じことが問題になっていたように思った。

- ・ 事業内容が理解していない担当コーディネーターがいるように思いました。

- ・ 市民点検委員とその他の委員を半々程度にして実施、または市民点検委員の事業に対する理解の向上を前提として、現在の人数比割合で実施。（もう少し市民点検に飯野事業に対する理解を事前に挙げておく必要があると感じました（市民点検委員のコメントから）。継続すべきと考えます。

- ・ 1つ1つの事業の現場を見て実施すべき。でなければやらない。

- ・ 市民委員が増えてきたのは好感が持てる、数年に1回とか、職員の緊張感持続の為にも同様の式は必要（市事業の定期的なチェック）

▽事務事業点検はやらなくてよい

- ・ コストがかかる。職員の自主性に期待。

・事業仕分け的なやり方は、もうやめた方がいいと思う。内部評価の充実を図るべきではないか。

▽その他

・点検がパフォーマンス的なものにとどまらず、点検結果が事業見直しに結びついているのであれば、実施すべきだと思います。

・この結果がどの程度次年度予算に生かされているかによる

・議会との違いは？第2の議会？実現（指摘内容を）するために一緒に汗をかく関係をつくるべき

・市の事務事業を第三者の視点を取り入れ見直すという意味では、多少の緊張感もあり、効果があると思いますが、だんだんマンネリ化する傾向があったり、市民の関心も少なくなっているように感じられるので、そこを改善していくことができれば、より意義深いものになるのではないかと思います。

4. 関心があった事業はありましたか？（2日間合計）

第1会場

事業番号	1	2	3	4	5	6	7
件数	3	4	8	5	4	6	11
事業番号	8	9	10	11	12	13	14
件数	6	8	2	6	5	2	5
事業番号	15	16	17	18	19		
件数	3	2	1	6	6		

第2会場

事業番号	1	2	3	4	5	6	7
件数	8	7	6	3	3	2	3
事業番号	8	9	10	11	12	13	14
件数	5	3	6	3	2	3	5
事業番号	15	16	17	18	19	20	
件数	5	3	3	8	1	4	

5. 事務事業点検の事業の中でご意見・ご感想がありましたらご記入ください。

▽1-2 福祉サービス利用者総合支援事業

・コーディネーター、点検委員、説明者のみが持っている資料（経費内訳）に基づいて議論が行われたため、資料のない傍聴者にはよくわからなかった。（同じレベルで傍聴者にも配布すべき）。

他の事業でも、度々同様のことがあった。

・社協全体のあり方を問うことはもっともだ。人件費にかけ方が他の業務との兼務でわかりづらい。

▽1-3 地域まつり運営事業

・コーディネーターの考え方ではコミュニティや伝統は持続しない。理想論を地域の担い手に話していくことは限界にきていると思います。全センターが一律の祭りでは自主性・地域性がない。

・おまつり後の反省をしていない。

▽1-7 市立幼稚園維持管理・整備事業

・私立のように所得に関する月謝については、低所得者以外は適用にならないので、議論を重ねるより、公立であるメリット（学習に力を入れるだけでない点）などを伝えて欲しかった。

・教育に関する事業を数字だけで判断するのは問題があると思う。より良い市にしたいのなら、より良い人間を育むこと。その根本の部分から公が手を引かなければならないなら、税金を払うのもばかばかしいと思います。

・抜本の見直しの決がされましたが、今度、具体的にどのように進んで聞くのかが気になります。

「市立の売り」コストはもちろんですが、親の目が行き届いてる点があります。毎日の送迎はもちろん、毎日お弁当。（給食なし）バスに乗せたら「はい、さようなら」ではなく、担任と毎日、子どもの様子を話すことができます。行事もお母さん先生としてお手伝いする場も多いです。

園庭開放では、公園より安全に遊ぶだけではなく、先生方も育児相談にのってくれます。（在園児以外でも）親が常に近いから、自立は？と思われるかもですが、保育指導はどの先生でも安心です。私立だと若い先生が多いそうですが、離職割合も低く、親身になってくれるベテラン先生の存在は大切だと思います。体おもいっきり動かして、体操の先生がいなくても、身体能力は高いです。小1のリレー選手も多いです。幼稚園内でのコストは、もう少し削れるとは正直思います。

(文房具の支給。遠足時のバス代) そういうちいさなところからまず、見直しをして欲しいです。

▽1-9 部活動指導事業

・まったく学校現場のことが分かっていなくて失望した。こんな点検は市費を使ってやらないほうが良い。

・外部指導員の制度は、平成19年度からですが、それ以前は、教員に都費とは別に、市からの補助金が支給されていました。その制度の廃止の見返りとして、外部指導員の制度が導入されたと聞いています。

▽1-10 市民相談事業

・市として当然やらなければならない相談。②付加的サービスとしてやるべき相談。③市としてやらなくて良い相談。が混在している。②については、自己負担や被相談者負担があってもよい。

▽1-11 職員研修事務

・点検委員が、リタイア後の方が多く、現在の考え方とあっていない。高度成長期の経験則での認識での質問がいくつか見られ、点検委員の選定に疑問を感じる。

・成果測定について、派遣研修は専門、ないし特定の項目に関わる内容であるため、具体的にどのような施策に実施されたのかが明示されると良いと思います。例えば「庁舎建設」の研修が施策にどのように反映されたか？

・総合事務組合の研修では足りない理由が不明。市として実施すべき研修があるなら委託丸投げではなくて、地元企業や市民との共同研修などを企画した方が効果が上がるのではないかと。

▽1-12 地域体育館スポーツ活動運営事業

・指定管理者制度は導入していないとのことであるが、施設シートによると事業運営を委託しているとのことであり、指定管理ではないか？

▽1-13 文化財保護振興事業

・都下には美術館が多数ある中で、市が美術館を運営する理由があるとすれば地域の作家の紹介

と思われるが、どちらかと言えば「人寄せ」に腐心している。

▽1-14 青少年健全育成事業

・青少年が抱える問題は何か。それに市と地域の人はどうすると彼らの助けになるのか。それが現在どう行われているのか。仕分け人は本筋を捉えられていない。「主人公は青少年（と家庭）」

▽1-16 市民住宅運営事業

・エイブルなどで扱ってもらっては？（お金を払ってでも）

▽1-17 境界確定事業

・活動実績の欄の業務をどういう配分（割合）で実施するとコスパが最大になるのか明確にできる。良いと思います。課題3 専門職員の養成（良人事異動のローテから外す）ができれば良いと思います。

▽1-18 補助金 観光振興費

・補助金と委託費の区分が不明。観光物産館は設置場所が悪い。引き受ける業者はいるのか？建設時の問題でもある（交通に不便である）

▽2-1 NPO・ボランティア活動支援事業

・支援を前面に出すと団体はいつまでも市に頼ってくるのではないのでしょうか。

・NPOとはな～に？

・ゴールは何なのか？府中市の達成のゴールを示し、市民にもっと説明し、理解を求めるべきだと思います。

・今後新しい場所での活動に期待。

・市内のNPOやボランティアがセンターを生かし、活動ができたのかの成果は出すべき。市との協働の成果が見えない。政策に不足しているのは何なのか洗い出しが必要。再開発の中にあえて入ることに異議がある意見に賛成。

▽2-2 消防団活動支援事業（交付金 消防団）

- ・説明不足。活動内容を把握していない。
- ・各防災センターというのは消防団が所有しているのか？消防団員の飲食は報酬で賄うべきだと思う。
- ・良い指摘がありました。団員の活動を評価しながら、お茶代への支給を否定すると、使えるお金が削減されるだけ。支出項目を×××と変えてと提案した方が良かった。（実際の団員の活動は、もっと違いますが）

▽2-3 障害者就労支援事業

- ・市の事業範囲外だが、企業の「法定雇用割合、達成割合」が4割台とのこと。市とハローワークとの定期協議などをもって、効用割合達成の推進を図る努力などを行うべきでないか。
- ・市民の退職者（高齢者）を活用する。障害者対応について、教育が必要ではないか？
- ・市としての全体の理念が欲しい。企業とのハードルも高い中、生活と就労の全体をフォローする必要性について、もっと強調して欲しい。民間導入について、社協ありきではという意見に、市は3セク以外に対して人材養成がされていないことは問題。これは全体にいえること。現場のことをもっと職員がいえないと苦しい。

▽2-4 日常生活用具給付等事業

- ・日常生活用具（地域生活支援事業）は法で1割負担と定めてられていたでしょうか？それこそ事業点検の内容とは違いますか？

▽2-5 休日・夜間診療事業

- ・今日の中で一番議論が盛り上がった。委員やコーディネーターが指摘していたように、確かに二重投資であり、税の無駄遣いであるが、所管課が答弁していたとおり、そこまでして体制を確保する目的に、かなりの市民が妥当だという評価をしてると思われる。
- ・医師会は交渉していくことが難しい団体かと思われるが、所管課には、頑張っ改善して欲しい。

▽2-9 生活支援ヘルパー事業

・軽度者（要支援）が介護保険サービス利用ができなくなった時に、日常生活支援事業として昇華できる可能性のある事業であることの議論が必要と思いました。

▽2-11 プール管理運営事業

・構想日本の点検委員の意見は、構想日本の売り込み（施設シート）の感あり。好ましくない。同点検委員は時間配分を考えていない。一人で質問時間を使い過ぎている。

▽2-14 ファミリーサポートセンター事業

・業務委託で多摩同胞会へだしており、担当部署の子ども家庭部は、中身をつかんでいない。質問しても時間の無駄である。111件のペアリング実績をどう評価するか、13953千円の有効活用は？

▽2-15 公園緑地等維持管理事業

・23年度から24年度の事業者で、大幅なコスト削減がなされているが、その成果が何人で削減されたか把握されていない。また、公園管理を市民団体に委託しているが、業者に委託した場合のコスト比較がされていないのは問題。

・公園等で隣地市民で手入れなど自主的に行っている人あり。謝礼でも差し上げてよいのではないか。高木、低木、の選定などで、低木に関しては、地域の住民に技術要請を行って、協働を強力に進めて経費節減に取り組んでもらいたい。

▽2-17 補助金 商工業振興事業費

・細かなアウトプットの質問・説明が多い。質問と数値の関係が質問者の趣旨が伝わっていないのでは？説明者が補助金の支出者であるため、本来の会議所が考える事業目的まで説明するには無理がある（補助金行政の限界）。補助者（会議所等）も同席させることはできないのか。

・効果の検証は必要との見解だがどうしたって無理。

▽2-18 集団回収推進事業

- ・ 集団回収 10+2=12円/kgを払って民間に頼むのか、市が独自の経費をかけて、再生業者に販売するののかの問題。(売れるのですよ!)。どちらにもメリット、デメリットがあり、その議論に少しも進まない。知らなすぎる。事業仕分けなどできる知識量ではない。
- ・ 集団回収で、資源回収の31%を集めているが、回収事業者に支払う2円/kgの根拠が不明確である。もう少し分析する必要がある。
- ・ 集団回収の意義、目的をもっと明確に説明すべし。質問への回答が要領を得ない。初歩的な質問で時間を浪費するケースあり。説明者は担当者ではなく責任者を。この事業には質の問題がある感。
- ・ 行政回収との二重投資解消の方向性が見えない。2円/kgの業者奨励金はビジネスと考えた場合、支出するのはおかしい。同感。

▽2-19 補助金 勤労者福祉振興公社運営費

- ・ 委員の分析、指摘の方向性がわからなかった。行政も集団回収をどうしたいのか。行政回収との違いがわからない。行政回収は部署が異なるから(縦割り)から説明できないのか。

▽2-20 コミュニティバス運行補助事業

- ・ 必要性は感じているが、結果として市民の税金を利用しているが、利用者は良いが、利用していない市民に不満がある。税金は市民全員に平均して活用するのが前提である。市民は公平性を期待する。